

病院と地域をむすぶ



2016年 **11月号**

発行: 2016. 11. 10 総合病院 南生協病院

10月実績

一日外来患者数: 835.1人 一日入院患者数: 274.1人 ベッド稼働率: 88.9%
救急車: 232台 手術数: 116件 紹介件数: 567件

呼吸器の病気と言えば

呼吸器の病気と言えば、肺炎、喘息、COPD、肺癌など多岐にわたります。特に肺炎は若年者から高齢の方まで幅広く罹患されますが、高齢者や神経疾患などの方が肺炎を起こされた場合は誤嚥が原因のことが多くなります。誤嚥性肺炎は抗菌薬治療も大切ですが、その後に嚥下評価、運動リハビリなど包括的な取り組みが必要です。当院では嚥下内視鏡、嚥下造影などの検査も組み合わせながら、様々な職種が関わりながら対応しています。また、慢性肺疾患の方は息切れなどの症状で悩まれる方も多く、入院・外来で呼吸リハビリも行っておりますので気軽にご相談ください。呼吸器疾患の治療は重症肺炎の時は酸素療法、人工呼吸器の管理などが必要になりますが、操作を少し誤るとそれ自体が命にかかわるため安全管理が非常に大切になります。一方で誤嚥性肺炎や慢性肺疾患、肺癌の方などで終末期を迎えられる方も多く、終末期ケアも重要であると考えております。

呼吸器内科 管理医長 長田芳幸

RST(呼吸ケアサポートチーム) 委員会の取り組み

呼吸療法認定士 臨床工学技士 小澤伸哉
みなさんは『RST』を知っていますか? RSTとは**呼吸ケアサポートチームの略**で、医師・看護師・理学療法士・臨床工学技士と様々な職種で構成された専門的なチームです。特に生命維持管理装置である人工呼吸器を装着している患者様の呼吸管理、リハビリテーション、リスク管理をそれぞれの職種が専門的な知識を活用し、**よ的確でよ安全な医療の提供、人工呼吸器装着期間の短縮、入院期間の短縮、生命予後の改善**を目指しています。

毎週金曜日、急性期の患者様を中心に**病棟回診**を行っています。回診時には主治医や担当看護師と**意見交換ができる環境作り**を心がけています。病気という不安を抱えている患者様と、責任と不安を抱えながら臨床の現場で最善を尽くしている主治医や従事スタッフ双方にとって、少しでもサポートしていければとRST委員会一同考えています。

睡眠時無呼吸の治療を行っています

検査科 生理検査室 塚本雅彦

睡眠時無呼吸症候群(SAS)という病気をご存じでしょうか? 肥満・首が太い・顎が小さい等の理由で、睡眠中に呼吸が止まってしまう病気です。**鼾、日中の眠気、目覚めが悪い、頭が重い、夜間頻尿等ある方は要注意**です。SASは生活習慣病との関わりもあり、呼吸が止まる事によって循環器疾患、脳血管障害を併発する可能性が高いことが知られています。南生協病院では、SASについて呼吸器科・耳鼻科で受診・検査予約が出来ます。**検査は1泊入院で行う精密なPSG検査**と、検査機器を家に持って帰って行う**簡易検査**があります。どちらの検査をするかは医師にご相談ください。

検査で陽性になるとCPAP(シーパップ)という治療機器を使って呼吸が止まらないようにします。班会メニューも10月中に登録しますので宜しくお願いします。

